

【チーム担任制について Q&A】



Q1「チーム担任制」とは、どのような仕組みですか？

A1. 「学級担任を1人に固定せず、複数の教師で担う仕組み」です。

具体的には、学年職員が各学級をローテーションで担当していきます。基本的には学年主任は、ローテーションには入らず、全体を見届けます。その日、担任ではない教師は、学年主任とともに、全学級をまわり、担任を支援します。年度当初、生徒の学級発表の時間には、担任発表ではなく学年職員を発表します。

Q2.どのような周期で担任は交代しますか？

A2. 年度始めの4月は第一週目に1日周期で担任を交代します(1週間で、全担任が全クラスに入ることでできる限り早く学年全全体の様子を把握するため)。

第二週目からは原則3日周期で担任を交代します(複数日にすることで、生徒の日ごとの変化を理解しやすいため)。

ただし、担任交代の周期は、行事等の状況に応じて、日替わり、複数日、週単位等で変えます。また、生徒には月末に次の月の担任を伝え、教室にも掲示し、見通しをもてるようにします。

Q3.チーム担任制を導入する目的はなんですか？

A3. 目的は3つあります。

1つ目は、これからの時代を生きていくためにより必要になってくる「生徒が自ら判断し、自ら創り出す力」を育むことです。学級担任を固定しないことで、生徒自身がより主体的に自分事として、幸せな人生や、よりよい学級・学年・学校・社会について考えることで、自立・協働・貢献し、生活を見つめ自らを創り出す力が培われます。

2つ目は、教師がチームになり、複数の教師がそれぞれの持ち味(よさ・強み)を生かすことで、多様かつ柔軟な支援につながります。また、教師も生徒も含めて人間関係を固定化することなく、流動化することで、学級や学年等がより開かれた対等な関係となり、「不登校等の生徒を含めたすべての生徒が安心して学べる居場所となる学校」を創ることができます。

3つ目は、教師が学級をローテーションでまわるため、各学級の特徴を学べるとともに、ベテラン・中堅・若手等の世代が異なる教員が互いの持ち味や指導を学び合うことで、「教員の指導力の向上」が図れます。また、教員が育児・介護・病気等で休んだ場合でも、どの教員も担任としては入れるので、生徒は安心して充実した学びが継続できます。

Q4.チーム担任制を実施すると、具体的にどんなよさがありますか？

A4. よさは、生徒にも教師にもあります。

1つ目は、生徒は複数の教員と接することになるので、話しやすい先生を見つけやすく、「より豊かな人間関係」を築くことができるようになります。

2つ目は、生徒は多様な価値観に触れることができるので、「より広い視野や価値観」で生活することができます。

3つ目は、複数の教師が関わることで、生徒の様子や友人関係の変化を多角的に観察でき、「問題の迅速か

つ組織的な早期発見」が可能となります。

4つ目は、教員も得意を生かし苦手を補い合うとともに、緊密にコミュニケーションをとるために、「より質が高く、きめ細かい指導」ができるようになります。

Q5.チーム担任制を実施すると、具体的にどんな課題がありますか？

A5.課題は3つ考えられます。

1つ目は、教師が変わることで生徒が混乱する可能性があります。

そうならないよう、「教師は学年生徒全員の担任」であるとの意識で日々の指導に当たります。また、教師同士の連携を密にし、「学級・生徒について共通理解」を図るとともに、「教師は共通行動での指導」を行った上で、それぞれ多様なよさ・強みを発揮します。

加えて、年度初めに、「主として担当する教師（懇談担当）」を決め、生徒・保護者にお伝えします。教師は各クラス6人前後を「懇談担当」として受け持ちます。つまり、教師はどの学級にも担当する生徒がいるため、すべての学級に責任をもちます。「懇談担当」は変更も可能です。

2つ目は、保護者の方はいざという時に相談する教師が迷われる可能性があります。

基本は、年度当初にお伝えした「懇談担当教師」にご連絡ください。なお、当日に担任を担当した教師やその他の教師に相談したい場合もあると思います。このように迷われる場合は、学年主任に連絡をください。

3つ目は、学級数が少ない場合は学年職員が少なくなり、ローテーションができないことがあります。しかし、令和6年度青山中は、各学年4学級、特別支援学級も2学級です。教師数は以前より少なくなっていますが、現状であればローテーションができます。

Q6.懇談（二者、三者、進路に関わる）や教育通信の記載は、どのように行われますか？

A6.懇談は、基本的には、「懇談担当が一貫して責任をもって対応」します。ただ先述した通り、懇談担当ではない担当との懇談を希望された場合は、「別の教員との懇談も可能」です。

教育通信は、教科担任と、懇談担当を含めた学年職員で責任をもって評価します。なお、担任名は学年主任で統一します。

Q7. 懇談担当はどうやって決めますか？

A7. 学級を出席番号順に、チーム担任に関わる教師数で分けたグループを A・B・C…と設定し、そのグループを男女のバランス等を考えながら、組み合わせていきます。

例) 1組 A グループ、2組 C グループ、3組 B グループ、4組 A グループの懇談担当は、●●先生

1組 B グループ、2組 E グループ、3組 C グループ、4組 B グループの懇談担当は、△△先生 など

Q8. 懇談担当が年度途中で変更することはありますか？

A8. 基本的には年度当初にお伝えした懇談担当が年度末まで責任をもってお子様に寄り添っていきます。しかし、前述のとおり、懇談担当は保護者からの要望があれば年度途中でも変更することは可能です。また、令和7年度は保護者の方とお子さんの学校生活や家庭での様子について連携を充実させるために、4月、7月、11月、1月、3月（4、3月は希望制、1月は3年生のみ）に三者懇談を予定しています。

Q9. 学年職員の担当として、懇談担当がありましたが、他にどんな担当がありますか？

A9. 担当は長期的に固定のもの（懇談担当、道徳担当、会計担当、総合担当、学習担当）と、行事等のタイミングに応じて変わる担当（提出物回収担当、しおり作成担当）があります。

Q10. 青山中では個を取り上げる学級活動を大切にしてきましたが、どうなっていますか？

A10. 学級活動には大きく2種類あります。1つ目は「生徒主体で行う自治を高める学級会としての活動」です。これはチーム担任制の実施により、生徒がより主体者・主役・主権者として取り組みます。

もう1つの学級活動が、「教師が学級の生徒を取り上げ、一人ひとりが自立・協働・貢献等の生き方について考える活動」です。質問にある個を取り上げる学活は後者に当たります。この学活は、4月願いづくり、5・6月願いと現実のずれをみつめる、9・10月前期の財産、12月3年生での進路選択・決断、1・2月1年間の財産等を行ってきました。個を取り上げた学活は、青山中が大切にしてきた生き方に結ぶ感動の教育を行う上で重要な活動であり、生徒のアンケートでも95%がやってほしいと望んでいる活動です。そのため、「チーム担任制を実施しても個を取り上げる学活は引き続き実施」していきます。具体的には、学年主任の差配により、各教師は年間を通して、「特定の学級に偏ることなく、全学級で学活」を行います。また、学年や学級の状況に応じて学年集会という形で学活を行う場合もあります。

Q11. 生徒の多様性を生かし、開かれた対等な集団を創るために、他にはどのような取組をしますか？

A11. チーム担任制以外にも、様々な取組を行います。学級内においては、班は作りません。また、「イエナプラン：縦割り活動」「特色タイム」「生活を見つめ自ら創り出す日」等の取組を行います。

Q12. 1人の担任と創り上げてきた行事等は変わりますか？

A12. 行事を大切に創り上げることに変わりはありません。ただし、主体は教師ではなく生徒であり、生徒の意思に基づいて創り上げる行事が変わります。そのため、1人の担任の考えで指導するのではなく、チーム担任の変わる周期等を工夫して、チーム担任で生徒の意思を尊重して伴走していきます。

Q13. チーム担任は、どのように情報を伝えますか？

A13. 毎朝と、放課後に学年打合せを行います。

朝は、学年主任を中心に、各学級や生徒についての見通しを共有します。放課後は、その日の成果や課題、次の日に気をつけることを確認します。「情報共有シート」も作成し、情報も蓄積していきます。また1週間に2回程度、放課後に長めの打合せを行います。

Q14. 生徒個人のことで学校に確認したいときは、誰に確認すればいいですか？

A14. 基本的には「懇談担当」にお伝えください。

「懇談担当」が不在等の場合は、学年主任や学年職員で対応します（内容によっては後日の対応になる場合があります）。

Q15. 提出物は誰に提出すればいいですか？

A15. 学年統一で提出物がある場合は、朝、職員が廊下で学年分を回収します。生徒は、担当職員に提出物を提出し、教室へ入ります。